

かたの 寺社巡り

ノルディックで
指定文化財を歩く

- 7 -



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウオーク」を11月・30年3月に開催します。それぞれのコースで見ることが出来る文化財について、連載しています。11月のノルディックウオークは14頁に掲載していますので、ぜひご参加ください。

今月は、光通寺と私部城を紹介します。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



光通寺

光通寺は、山号を長寿山といい、臨済宗東福寺派莊嚴院の末寺です。

市役所の北東に位置し、付近には無量光寺や想善寺が立ち並び、かつてはにぎわいのあった場所です。

開山は、別峯大殊(円光国師)で、後村上天皇からも深く帰依された僧です。応永9年(1402年)に光通寺を来訪し、その年の8月に光通寺で亡くなりました。

別峯和尚の死後、応永18年(1411年)、光通寺は室町幕府第4代將軍足利義持の祈願所となり、さらに延徳4年(1492年)には、後土御門天皇の口宣により、勅願寺となりました。このことから光通寺は、幕府や朝廷と深いつながりを持つことが分かります。



別峯大殊和尚



私部城と光通寺

私部城は戦国時代に築かれた城で、北河内を中心に活動していた安見右近の居城でしたが、光通寺はその立地や地形から、城の出郭(城から少し離れて設けられた敵を迎え撃つ重要な陣地)として使われていた可能性があります。

実際に、寛文4年(1664

年)の光通寺棟札(下写真)八尾市立歴史民俗資料館提供)には、安見氏によって寺が破壊されたとの記述があり、安見氏を非難する内容となっています。

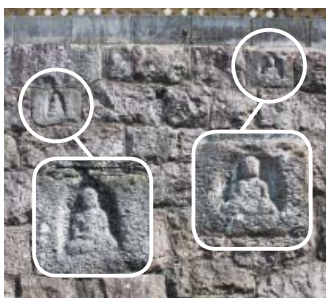
光通寺は、私部城が廃城となった後、江戸時代に、同じ場所に再建されました。寺の石垣には、石仏も再利用されており、夕日が差すころには、はつきり見ることが出来ます。



私部城跡



棟札



豆知識

朝廷へ「お茶」の献上

光通寺には、後陽成天皇の匂当内侍(女官)から女房奉書1通と、寺社伝奏庭田重具・庭田重定の披露状2通が現存しています。いずれも中世における朝廷との結びつきを示す史料です。女房奉書は、匂当内侍が天皇の意を奉じて出したもので、「光つう寺より、かれみ(嘉例)のくわんしゅ(巻数)・御ちゃ(茶)まいらせ候…」とあり、祈祷・追善のために読んだお経などを記した巻数と、お茶を朝廷に献上していたことが分かります。



女房奉書

